第2 回 EL CAMINO ART AWARD

入賞作品

金賞

NO.05

風と土と醍醐の桜

幸山ひかり
京都市立芸術大学大学院
美術研究科美術専攻日本画修了

醍醐寺に訪れて大変印象に残っていることは、
土の匂いと風の柔らかさ、そして桜の木…
その幹や枝に着いた地衣類の豊かさに永い祈りの時間を感じました。
そんな情景をイメージしています。

和紙、岩絵具、水干絵具、染料、墨、色鉛筆

910×652mm

銀賞

NO.14

A Wish at Daigoji Temple

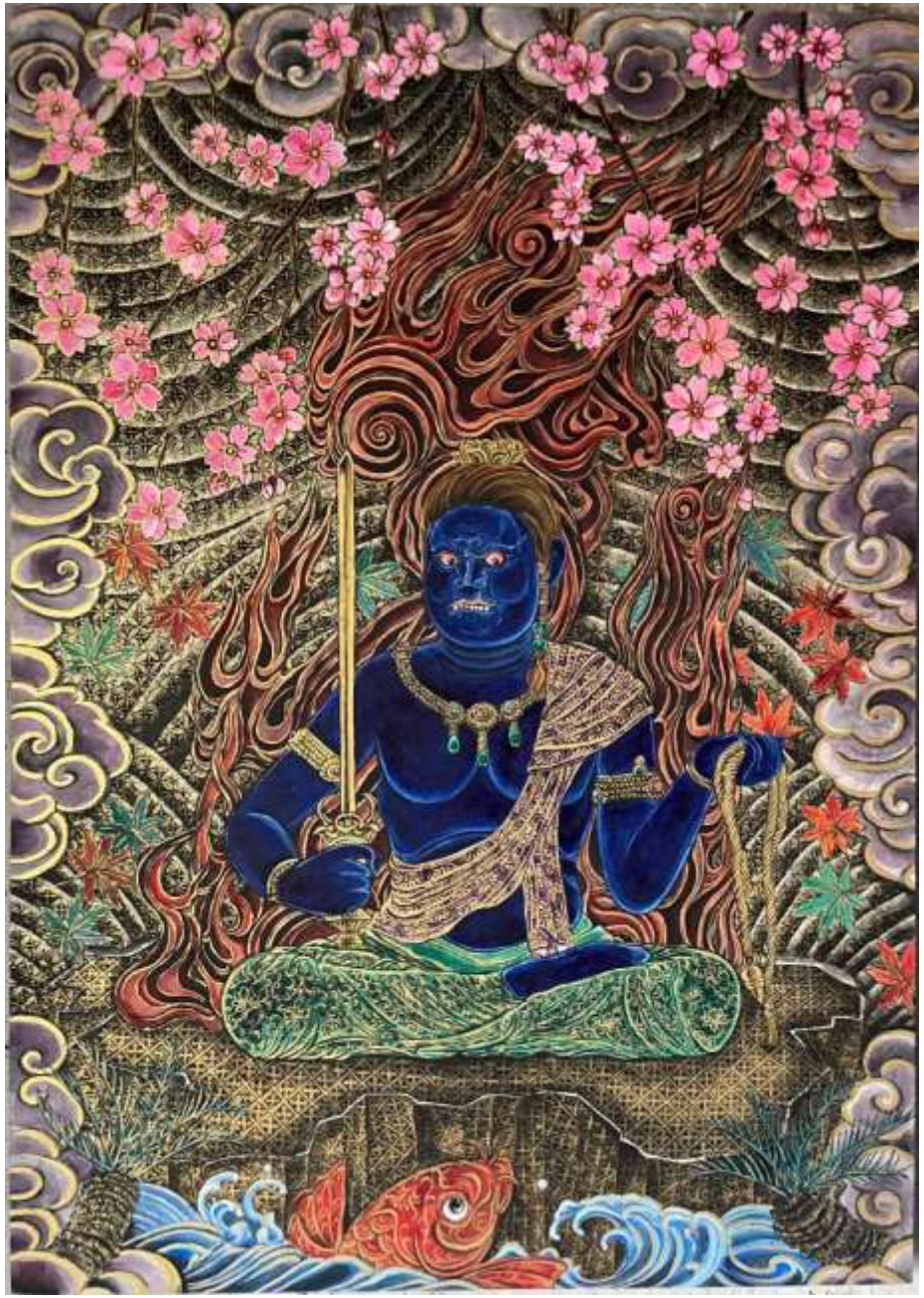
平野早依子
同志社大学文学部英文学科卒

この国の文化豊穣と、それに寄与していける自身の芸術家としての成長を醍醐寺の弁天様に願い、実る秋の情景をシナの天然木目を生かし表現しました。

シナの木にアクリル絵具、金箔、樹脂

535×910mm

特別賞



NO.15

醍醐の桜不動紋

ERINA MUKAIJO

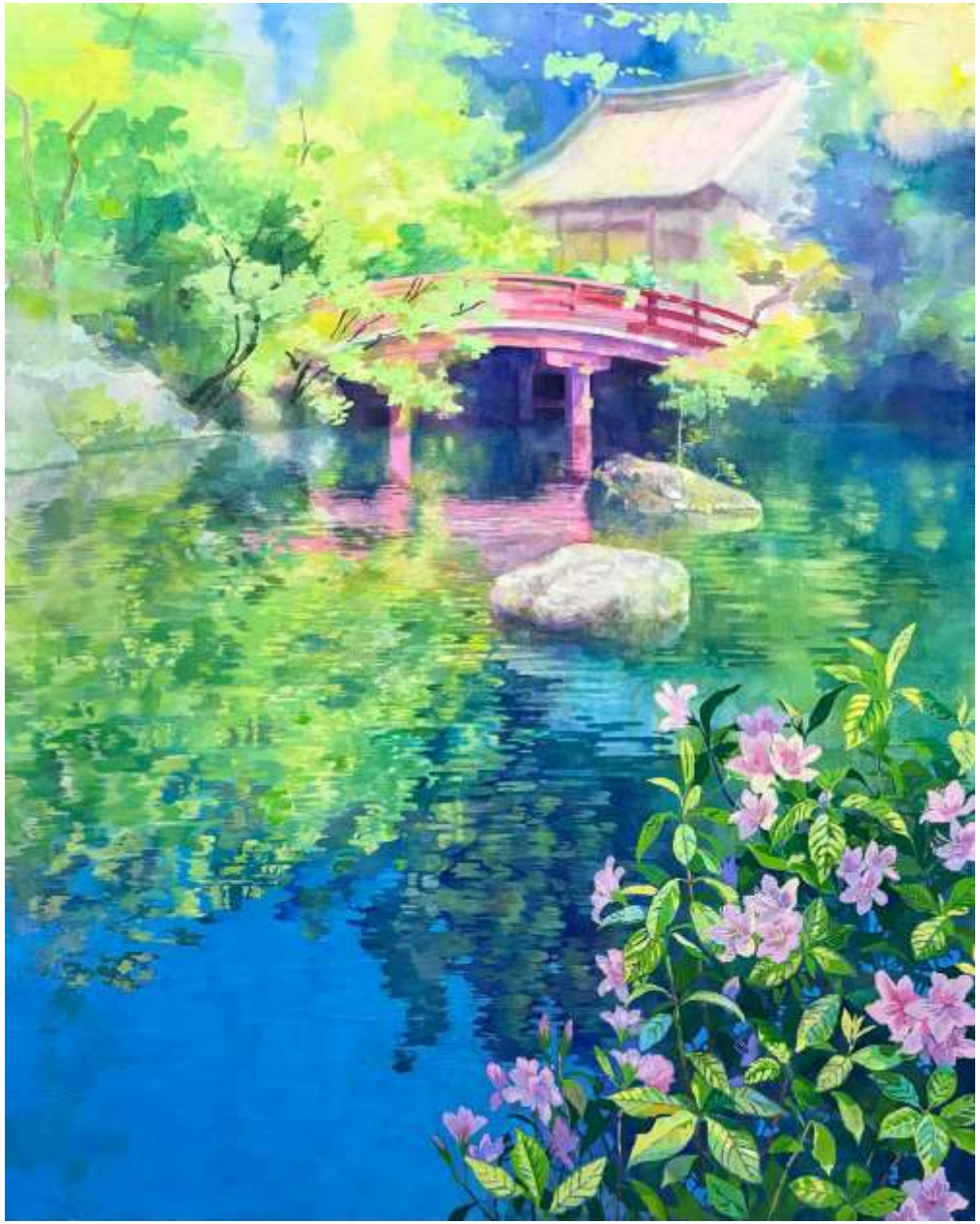
東京藝術大学大学院絵画科版画専攻修了

醍醐寺三宝院の快慶の不動明王に衝撃を受け、
更に境内の庭園の枯山水の砂紋を見て日本刺青の「額」に通じる身体への水景表現を見出し、この作品は醍醐寺の枝垂れ桜、赤、青の紅葉に枯山水、蘇鉄、鯉、そして快慶の不動明王と「醍醐寺の花と景色」を背一面に纏う”見立て”として描きました。

木製パネル、和紙、水彩、アクリル

515×728mm

入賞



NO.01

午後3時、快晴

あざみ

京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒

弁天堂の側にある池を眺めていると穏やかな気持ちになります。醍醐寺のおおらかな空気に包まれながら鳥の声に耳を澄ませた午後のひと時を思い起こしながら制作しました。

木製パネル、透明水彩、アクリル

910×727mm

NO.02

日和花扇(ひよりはなおうぎ)

伊吹美郁

京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒

醍醐寺を訪れ自然と調和した三宝院の庭園が印象に残り、「藤戸石」が花見をしているような構成にしました。俵屋宗達の扇面散図から着想を得て扇面を取り入れました。

麻紙、水干絵具、アクリル絵具

603×728mm

NO.03

花守

王 溪岩

京都市立芸術大学
美術研究科工芸コース染織専攻在学中

桜は咲き、やがて散り、再び春を迎える。仏像とともに時を重ねる姿から、自然と信仰の共生を描いた。

ロウ染

900×900mm

NO.04

清らかに咲いて

岡本博紀
大阪芸術大学大学院
芸術研究科絵画領域修士課程修了

夏、醍醐寺の境内にて咲き誇る、
太陽に照らされた蓮の花を描きました。

インク、木製パネル

727×727mm

NO.06

東風吹く過去から胸騒ぐ

阪倉一馬
京都精華大学大学院
芸術研究科博士前期課程芸術専攻修了

三宝院の石庭と木漏れ日。嘗て、この庭園で花見が行われていた生々たる古を感じ取り描きました。

キャンバス、アクリル、油彩

700×700mm

NO.07

鬼瓦と桜

柴田若奈

京都市立芸術大学大学院
美術研究科修士課程絵画専攻修了

鬼瓦には魔除け、火事除けの意味が込められている。醍醐寺を守る鬼面と、渓流の飛沫のように咲き溢れる桜を構成し、力強い姿を表現した。

凹版画

940×760mm

エディション1/1

NO.08

時計の彼方へ

周志雄

京都精華大学大学院日本画専攻修了

紅き花、私が想いを遠き橋へと誘う。四季の移ろう温もりに寄り添い、咲くたびに花は新たな表情を見せる。これが帰郷の思いか、旅立ちの思いか。その境界は、ただ茫漠と揺れて見える。

岩絵具、墨、銀箔

530×455mm

NO.09

祈りの庭

相馬麻由

女子美術大学美術学科洋画専攻卒

醍醐寺の藤戸石から、太平の世を夢
見た人々の切なる祈りを感じ、描いた。

パネル、化学染料を使った自作絵具、ジェッソ、
グロスバーニッシュ

1000×727mm

NO.10

蓮華の面影

ネイネイ

多摩美術大学大学院
美術研究科博士後期課程美術専攻修了

醍醐寺に息づく蓮と、時代を超えて現れる少女。

本作では、蓮と少女の境界を解体し、無数の線と断片として再構築した。画面を横断する力強い線は、水墨のにじみとグラフィティの即興性を内包し、交錯する痕跡は、記憶、感情、情報が絶えず流動する現代世界を象徴している。

異なる時間と文化を背負う二つの象徴は、一つの生命として溶け合い、伝統と革新、自然と都市、過去と未来を結ぶ新たな風景を描き出す。

アクリル絵具、キャンバス、パネル、アルミ箔

1000×727mm

NO.11

蓮華の彼方

ネイネイ

多摩美術大学大学院
美術研究科博士後期課程美術専攻修了

醍醐寺に息づく蓮と、静かに現れる少女。
蓮に溶け込む少女の姿は、再生と成長する生命の象徴である。
墨のにじみのように広がる色彩と、柔らかさと張力を併せ持つ線は、受け継がれてきた祈りと記憶の痕跡を映し出している。

弱さと強さ。静寂と躍動。

相反する要素を抱えながらも、二つの存在は一つの生命として融合し、自らの力で未来へ向かって伸び続ける生命の強さを描いている。

アクリル絵具、キャンバス、パネル、アルミ箔

1000×727mm

NO.12

Living -諸行無常ｉ-

平野えり

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒

死生観を制作のテーマに、刹那の思いを無意識の線に重ね描いてゆくスタイルで制作を行っています。今回は、醍醐寺で観聴した藤戸岩を中心に、自然の景色や歴史的構造物のもつ色彩・形態からインスピレーションを得て描きました。

アキーラ、アクリル、オイルパステル、鉛筆、メディウム、モデリングペースト、キャンバス

635×755mm

NO.13

Living -諸行無常 ii -

平野えり

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒

死生観を制作のテーマに、その時その瞬間の思いを無意識の線に重ね描いてゆくスタイルで制作を行っています。今回は、醍醐寺の自然がもつ色彩や形態、歴史的構造物のかたちなどからインスピレーションを得て描きました。

アキーラ、アクリル、パステル、
鉛筆、紙、パネル

675×795mm

NO.16

醍醐の花見

森瑞希
京都芸術大学芸術学部
美術工芸学科油画コース在学中

弁天池に静かに揺らぐ水面。
睡蓮の花が淡く溶け合い、春の記憶をたどる。

キャンバス、油彩

1000×803mm

NO.17

未来、君のためなら、

月月月(Hoduki)
京都芸術大学大学院修士課程
芸術実践領域日本画分野在学中

三宝院に伝わる弥勒菩薩坐像に取材し、金泥の剥落を纏いながらも、未来から私たちを見つめ、私たちを導びていく存在。
その痕跡に信仰の時間を見出しながら、未来仏である弥勒を当世の図像として翻訳し、描き出すことにした。

パネル、マット紙、インクジェットプリント、箔、顔料

1000×500mm

NO.18

醍醐寺の壁

湯浅泰将
筑波大学大学院人間総合科学研究科
芸術学学位プログラム日本画領域修了

醍醐寺の門の壁面と野仏を構成し、それまでに積み重ねられてきた時間を絵具のマチエールで表現しました。

高知麻紙、水干絵具、岩絵具

727×910mm

NO.19

HAPPY醍醐寺

ハッピーモンスター横峯竜之

大阪芸術大学美術学科抽象ゼミ卒

醍醐寺に着くと、静かな森と静かな大仏と静かで綺麗なお寺で、ハッピーになりました。お寺と一緒に心が静かに動いてハッピーになるバワーがある!そんな醍醐寺を感じたので、ハッピーモンスターを付け足して、ハッピー如意輪観音像を描きました。五重塔や弁天堂など、素敵な醍醐寺の風景も揃えて、ハッピー醍醐寺です。
この絵で皆さんがハッピーになりますように

キャンバス、アクリルシリコン絵具、銀紙

910×910mm